



No.62

長野県看護大学学報



学長就任あいさつ

2026年4月1日に阿部長野県知事より学長の職を拝命しました。

3月までは公衆衛生看護学を担当する教員として授業を行い、また学部長として大学運営に関わっておりました。本学の教育・研究にご協力を賜り御礼申し上げます。本学は昨年度開学30周年を迎えました。2368名の学部卒業生、233名の大学院修了生を送りだしてきています。日本は人口減少・人口偏在社会を迎えています。看護職に期待される役割は拡大してきています。そのような中で長野県看護大学のあり方をどう描いていくのか。とても重要な課題に身が引き締まります。同窓生のみなさんとのつながりを大切に、地域とともに学び成長する大学として、学生がのびのびと学べるよう、教職員との議論・対話を積み重ねて新しい価値を創造していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学長 安田 貴恵子

学部長就任あいさつ

安田貴恵子新学長のもと、この4月より学部長を務めることになりました。日頃より本学部の教育・研究、そして地域での実践を支えてくださる皆さまに深く感謝申し上げます。本学部はこれまでも、地域の健康課題に寄り添い、看護の専門性を生かした社会貢献に取り組んでまいりました。あわせて、学生一人ひとりが自らの可能性を見だし、看護職としてのキャリアを主体的に築いていけるよう、学びの環境を丁寧に整えてまいります。これからも、地域の課題解決に向けて、学術研究と実践の循環を通して、看護をともに探究する学部づくりを進めてまいります。引き続き、ご指導のほどお願い申し上げます。



学部長 渋谷 美香



研究科長 竹内 幸江

研究科長就任あいさつ

今年度4月より研究科長に就任いたしました。専門は小児看護学で大学院では小児看護CNSコースも担当しております。本大学院には博士前期（修士）課程200名以上、博士後期課程20名余りの修了生がおります。博士後期課程の修了生は、ほとんどの方が教育・研究職となっておりますが、修士課程の修了生は専門看護師や看護管理者などとして実践を積み、医療現場での看護の質向上に貢献しております。そのような修了生の活躍を耳にするたび、大変うれしく思います。これからも、様々な動機をもち、キャリアアップを目指して入学される大学院生が、自身の目標を達成できるよう、主体的に学べる体制や環境を整えていきたいと思っております。

さいたまから駒ヶ根へのエールにかえて 退任のご挨拶

街路樹のハナミズキには白やピンクの花が咲き、5月のさわやかな風に揺れています。

2026年3月末に長野県看護大学の第6代学長を退任し、自宅に戻りました。2022年度から2025年度の4年間、皆様には大変お世話になりました。学長としての使命を果たせたのも、長野県庁の皆様、教職員の皆様、実習施設や県内の大学関係者の皆様、駒ヶ根市の関係機関や住民の皆様など多くの方々に賜りましたご支援とご協力のおかげです。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、お世話になった皆様にこの言葉を贈ります。

“教えるとは共に希望を語ること

学ぶとは誠実（真実）を胸に刻むこと”

ルイ・アラゴン「フランスの起床ラッパ」より



前長野県看護大学長 大塚 眞理子

新入生の紹介



(写真前列中央)

看護学部1年生

内山 穂乃佳さん

私はオープンキャンパスで、先輩方が同じ目標に向かって支え合いながら学ぶ姿に魅力を感じ、本校を志望しました。入学後は想像以上に忙しい毎日ですが、自分の目標に近づいていることを実感し、充実した日々を送っています。また、友達と課題に取り組んだり、ご飯を食べに行ったりと、私生活も楽しんでいます。離れていても支えてくれる家族や、毎日笑顔と刺激をくれる友達、温かく指導してくださる先生方への感謝を忘れず、夢に向かって一步ずつ成長していきたいです。

入学してから2ヶ月ほど経ちましたが、まだまだ慣れないことも多く、テストなどの不安は多くありますが、とても楽しく過ごせています。ここは私の地元から離れているので、新しいことや発見が多くて、自分の考えが広がっていくことが楽しいです。

また、看護学概論などの看護に関する授業を聞くなかでそれらが私の目指す看護師像を問い直すきっかけを作ってくれました。私のなりたい看護師のイメージで本当に対象者を支え、回復に向かっていけるようにすることが出来るのか、それをするために自分に足りないものは何なのかという気づきを与えてくれる先生方には感謝しかありません。これから、実習なども始まってきてさらに忙しくなると思いますが、自分で選んでここに来て、看護師として人として私の人生でやるべきことがいつか出来るようにこれからも頑張りたいです。

看護学部1年生

長山 昇太郎さん



(写真左端)

大学院博士前期課程1年生

小原 涼さん

私は本学を卒業した後、総合病院で勤務し、現在は在宅型有料老人ホームで勤務をしています。その中で、看護理論について学びを深め、看護実践に活かしたいという思いがあり、大学院に進学しました。

大学院ではさまざまな経験を持つ同期生の方々とのディスカッションや、経験豊富な先生方から講義を受け、日々学びを得ています。自身の学びを臨床現場に還元し、良い看護ができるよう、大学院で多くの学びを得ていきたいと思っています。



在学生から新入生へのメッセージ

看護学部 4年

小林 ほの花さん

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。勉強や実習で大変なこともあります。大学生活は本当にあっという間です。私は4年になって、「もっと遊んでおけばよかった」と思うこともあります。ぜひ友達との時間やアルバイト、サークル活動など、今しかできない経験も大切にしてください。たくさんの人と関わり、いろいろな経験をすることで、自分自身の成長につながると思います。たくさんの思い出を作りながら、大学生活を楽しんでください！



(写真 右側)

看護学部 4年

庄村 萌々さん

1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活では、勉強やアルバイト、サークルなどを通して、たくさんの出会いや発見があると思います。私自身も、休学してアフリカに行ったり、地域活動や国際保健に関わる活動を行ったりと、多くの機会に恵まれ、経験を重ねてきました。大学内外での経験は、自分の価値観や将来を考える大切な時間になります。自分のペースを大切にしながらも、ぜひ様々なことに挑戦しながら大学生活を楽しんでください！



(写真 左側)

大学院博士前期課程 2年

北原 陽子さん

教育担当師長として根拠ある看護の指導に不安を抱える中、認定看護管理者ファーストレベル研修での気づきを機に、看護管理学分野への進学を決意しました。実践的な課題について先生方の熱心なご指導や諸先輩、同期と議論を重ねる日々は、多角的な視点と深い思考力を養う貴重な機会となっています。仕事と学業の両立は容易ではありませんが、大学院での学びは今後の自身のキャリアにおいて大きな意義があると実感しています。



令和7年度 国際看護実習

2026年2月23日から3月1日まで、3年生11名がカンボジアで国際看護実習を行いました。本実習は文化や歴史の異なる国での体験を通じて多様性への理解を深め、グローバルな視野で健康と看護のあり方を考える力を養うことを目的としています。

現地の病院、看護大学、キリングフィールドなどを訪れた学生たちは、かつての悲しい歴史にも向き合い、「健康は、人が安心して生き、将来への希望が持てて初めて考えられるもの」と実感しました。また、病院での家族付き添い文化に触れ、自国の医療や自身の『当たり前』に当てはめるのではなく、相手の文化や背景を尊重する姿勢が対象理解の大切な視点であると学びました。実習後は、「多文化共生の視点を持った看護を実践したい」など、学生それぞれが今後への思いを新たにしていました。

最後に、私たちをサポートしてくださったカンボジアと日本の関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

基礎看護学分野 准教授 上野 里美

カンボジア実習に参加した理由は、今しかできない経験をしたいと思ったからです。実際に現地を訪れると、日本とは異なる文化や生活に触れ、初めて出会う匂いや食べ物など、毎日が新鮮な発見の連続でした。また、現地の看護学生との交流では、異なる国にいらながらも同じ道を志す学生として看護や現地のことについて会話をすることができ多くの刺激を受けました。さらに、カンボジアではトゥクトゥクでの移動も貴重な体験でした。学びと楽しさの両方を味わえる、とても充実した実習でした。看護学部4年生 笹川 陽菜さん



コミュニティーヘルスセンターで現地の状況を聴く様子



JICAカンボジア事務所にて

国際看護実習では、JICAやフメール・ソビエト友好病院への視察、現地の看護学生との交流等を通して、カンボジアの医療や看護について学びました。実践を重視した教育によって医療人材不足への対策が行われている一方、医療保険制度が十分に整備されておらず、必要な人に必要な医療が行き届かない現状があることを知りました。また、カンボジアの食文化や生活環境、人々との交流など、私にとってすべてが新鮮で貴重な経験となりました。今後はこの学びを活かし、患者さんの病気だけでなく生活背景や価値観にも目を向け、多面的な視点から寄り添う看護を実践していきたいです。

看護学部4年生 山本 果歩さん

退任教員挨拶



私は長野県看護大学で19年間勤務させていただきました。様々な出来事があったはずなのですが、忙しく過ごしあっという間に過ぎてしまいました。この間で、私が印象深かったことは認知症看護認定看護師を立ち上げ多くの修了生を出せたこと、長野県内に老人専門看護師を輩出し活躍する姿を見られたこと、博士修了生が大学の教授・准教授として活躍する姿を身近に感じられたことなどです。教育のすばらしさは、次世代を担う頼もしい人材を育成できる点です。長野県看護大学が、優秀で人間味あふれる看護人材を今後も生み出し続けることを願っております。

前老年看護学分野 教授 渡辺 みどり（東京純心大学）

新任教職員紹介



小澤 香澄（小児看護学分野 助手）



矢澤 裕子（地域・在宅看護学分野 助手）

前列左より
桑原 良子（老年看護学分野 教授）
山田 ゆみこ（老年看護学分野 助教）
勝山 壮（病態・治療学分野 教授）

後列左より
今川 由紀菜（図書館 司書事務員）
小松 仁美（総務課 主査）
小林 清二（教務・学生課 課長）

4月に病態・治療学分野に着任いたしました勝山壮です。病院薬剤師・保険薬局薬剤師を10年間ほど勤めその後、薬学部で臨床教育に長年従事しておりました。専門は、医療薬学と薬理学です。アロマテラピー精油の鎮痛効果や抗がん剤誘発性末梢神経障害に対する漢方薬の研究を行っております。看護学部は、他大学の非常勤で臨床薬理学を担当していました。専任での看護学部は、初めての勤務となります。今後、薬学と看護学を繋げる教育・研究を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

病態・治療学分野 勝山 壮

老年看護学分野に着任いたしました。Doctor of Nursing Practice (DNP) を取得し、一貫して高齢者のポリファーマシー（多剤併用）および服薬管理に関する研究に携わってまいりました。現在は、AIを活用して高齢者の主観的な「語り」から転倒等の予兆を捉える「予測型看護」の構築に挑戦しています。これまでの経験則を科学的根拠へと昇華させ、ICTを用いた新たな看護教育モデルを確立することが目標です。学生のみならず共に、デジタル技術と看護が融合する未来を切り拓いていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

老年看護学分野 桑原 良子

Kandaigram 2026.1 ~ 2026.6



2 / 5 名誉教授授与式



3 / 6 卒業記念植樹



3 / 7 卒業式・修了式



3 / 16 研究集会



4 / 1 新任教職員オリエンテーション



4 / 2 入学式



4 / 23 1年生「アカデミック・リテラシー」

学生団体活動紹介 わらわらサークル

わらわらサークルは、全国の大学とも交流ができるサークルです。信州大学と長野県看護大学の合同サークルで、全国医学生ゼミナール、通称医ゼミに参加する会です。医ゼミは全国各地にある医療系学生が毎年集まり、学習会や交流会を行う企画のことで、毎年わらわらのメンバーも参加し全国の医療系学生と交流、学習会をしています。その他、定期的に学習会を行ったり、信州大学と長野県看護大学合同の交流会・学習会に参加しています。また、ただ企画に参加するだけではなく、企画を他大学の学生とつくりあげることもしています。

ぜひ、わらわらサークルの活動に興味を持っていただけたら嬉しいです。

わらわらサークル代表 看護学部 3年生 村上 真優さん



「ポスト医ゼミin信州」での発表の様子

協賛、寄贈、寄付

ご寄付いただきました皆さまへのお礼とご紹介

- 4月 伊那醤油株式会社 様 醤油をいただきました
4月 ハチ食品株式会社 様 パスタソースなどレトルト食品をいただきました
4月 おいでなんしょこども食堂 様 お米、野菜、レトルト食品をいただきました
心あたたまるご支援、誠にありがとうございます。



伊那醤油様（写真左）、ハチ食品様、おいでなんしょこども食堂様（写真中央・右）



INFORMATION



第29回 鈴風祭

開催日 9月5日（土）・6日（日） 10:00～16:00

テーマ 「Connect with people ～地域と笑顔と未来よ～」
地域の方々が笑顔になる未来に繋がります！

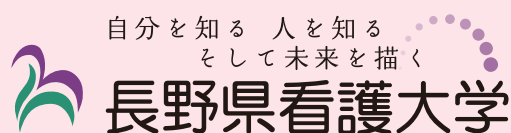
2026年度 第1回公開講座

テーマ 包括的な地域ケアの深化と看護の可能性

日時 9月6日（日） 10:30～12:00（受付 10:00～）

会場 長野県看護大学 大講義室（教育研究棟3階）

講師 長野県看護大学 学長 安田 貴恵子



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <https://www.nagano-nurs.ac.jp/>



長野県看護大学学報
No.62（令和8年7月）

編集・発行
長野県看護大学 広報・交流委員会